

南の島の養護学校

発表者氏名： 村松 渚

所属学校種： 東京都立青鳥特別支援学校

派遣職種： 養護

派遣国： フィジー共和国

派遣先： ラウトカ養護学校



キーワード： フィジー・大洋州・南の島の生活・障害児・養護学校・体育・スポーツ・パラリンピック・絆・手話・人のあたたかさ・家族

発表要旨：

1. 夢の先生、夢の協力隊員へ

小さいころからの夢だった「学校の先生」になり、その6年後、大人になってからの夢、青年海外協力隊に参加することができました。

派遣前訓練では、世界の人々のために何かをしたいという熱い気持ちをもった仲間とめぐり逢い、語学や海外での生活に必要な知識を学びました。



2. 南の島の養護学校

私の派遣された国は、フィジー共和国。南太平洋にある330の小さな島からなる国です。フィジーと言いながらも、世界大戦中にイギリスの植民地だった関係で、言語も文化も全く違うフィジー人とインド人が共存している不思議な国でした。配属先は「ラウトカ養護学校」。フィジーの首都スバに次ぐ第二の都市ラウトカにある、知的、聴覚、肢体不自由の障がいのある幼稚園児～20歳以上の児童・生徒の通う学校です。

①活動前半：『女子生徒が将来のために学ぶ職業コース（家庭科）の立ち上げ』

いきなり4名の女子生徒の担任となり、午前は簡単な英語や数学、午後は裁縫や図工などを教えました。

②活動後半：『全校生徒への体育指導』『日本語・日本文化』

1年後、校長先生が変わり、要請も変更。学校の時間割を全面的に見直し、各クラスに体育の授業を週2回配置。また、「体育」をちゃんと教わったことのないフィジーの子供たちに「一生懸命がんばることの大切さ」「ルールを守る大切さ」にポイントを置いて指導し、運動が苦手な子でも自分なりに努力する姿が現われ始めました。半年後、フィジーパラリンピック大会では、たくさんの生徒がメダルを獲得しました。

毎週月曜の朝礼で全校生徒や教員に日本語や日本文化を教え、挨拶などの日本語をみんなが話せるようになりました。

3. フィジー隊員との協力

他の隊員と協力して、首都のスバで『祭MATSURI-Japan Festival』のイベントを開催し、協力隊員のフィジー全土での活動と共に、着物、書道、餅つき、折り紙、ヨーヨー釣りなどの日本文化をフィジーの人々に紹介しました。